

1 学校教育目標

生命尊重と人間尊重の精神を基調とし、自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応し、国際社会に活躍できる「徳・知・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。

- ・活発で礼儀正しい生徒
- ・自ら学び、粘り強く努力する生徒
- ・心身ともに健康で、心豊かな生徒

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい中にも温かさを感じさせる学校 ・一人ひとりの生徒の良さを伸ばす学校 ・地域・保護者・生徒に信頼される学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・真剣に学び、難しいことにも挑戦する生徒 ・礼儀正しく、自らの考えを表現できる生徒 ・自らを律し、夢に向かい自立していく生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を愛し、深く理解し、惜しみない指導と支援を行う教師 ・授業力向上に取組み、指導と評価の工夫・改善をめざす教師 ・組織の一員として建設的な提案をし、積極的に実践する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校の現状〉

◎学校について	<p>[よさ] 創立当時の伝統が引き継がれ、保護者・地域が学校支援に力を注いでくれる。</p> <p>[課題] 学校の特色化と魅力ある学校づくりが必要である。学校改築に伴い、多くの生徒の通学時間が長くなった。現状と同等の教育環境を維持し、生徒がいろいろな活動に積極的に取り組める環境整備を行っている。</p>
◎生徒について	<p>[よさ] 全体的に明るく、人情味がある。多くの生徒は基本的な生活習慣が身に付いており、集団行動の質が高まっている。生徒会を中心に校風・良き伝統づくりのために努力している。</p> <p>[課題] 一部の生徒で規範意識が低い生徒が見られる。今後、様々な場面を通して規範意識を高めるとともに、自ら進んで学習に取り組む姿勢を育てる必要がある。特別な支援が必要な生徒がいる。関係諸機関と連絡をとりながら支援していく。</p>
◎教師について	<p>[よさ] 主幹教諭・指導教諭を中心に教育活動が機動的に行われている。</p> <p>[課題] 若手教員が増えた。ベテラン教員の指導力を活用して人材育成を組織的に行うとともに学校の活性化につなげたい。</p>
◎保護者・地域	<p>[よさ] P T A本部役員をはじめ多くの保護者は学校に対して協力的である。「開かれた学校づくり協議会」の委員を中心として、地域の学校への思いは強く貢献的である。</p> <p>[課題] 引き続き基本的な生活習慣の定着を支援する取り組みが必要である。</p>

〈前年度の成果と課題〉

- 魅力ある学校の創造に、学校・PTA・地域が一体となり努力を重ねた結果、学校の教育活動を肯定的に評価する生徒・保護者が多い。
- 教師の指導力・授業力の向上を図るとともに、生徒の規範意識や思いやりの心を育み、安全で健康な生活への意識向上を図ることが必要である。
- 7月に実施した区学力調査においては、目標通過率が65%であった。3年生では下位層が多いので、基礎学力補充が必要である。1、2年生においては中位層を上位層に引き上げることが求められる。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプランを基に、学力の向上を図る	○	○	○	○	○
2	基本的な生活習慣の定着と心の教育の充実を図る	○	○	○		
3	魅力ある学校づくりと教育環境の維持を図る		○	○		

5 令和二年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプランを基に、学力の向上を図る							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (正答率結果)		コメント・課題			達成度 ◎○△●	
学びの基礎・基本を定着させ学力向上を図る。		年度末到達度テスト 正答率65% 3年度区学力調査 目標通過率65%	年度末到達度テスト正答率 1年国66%、数64%、英62% 2年国66%、数56%、英56% ※区学力調査と同じ調査問題を一つ下の学年で2月に実施		年度当初の通過率は1年75%、2年64%、3年57%であった。授業時数を確保し、既習の内容が定着するように各教科で工夫した。年度末到達度テストでは、1年は区平均を上回り、2年は区平均並みであった。学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照。			○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	数学チームティーチング	全学年 数学科	通年 全授業	【指導体制】 授業は指導者2名体制 【取組内容、ねらい・目的】 授業内容が十分に定着せず、授業についていけない生徒に対して、適切な個別指導を行う。	数学授業 アンケート	授業に意欲的に取り組めた生徒の割合を80%	「学習意欲がある」と肯定的にとらえた生徒は91%、「授業は分かりやすい」とした生徒は94%。	講師によるTTを全学年で実施したところ、大半の生徒が意欲的に学習している。他教科と比べても顕著である。	◎

2 継続	放課後補習教室 (AST)	全学年 英語・ 数学 単元ごと に正答率 低い生徒	AST 基礎学 力補充 日 放課後 20分	【指導体制】学年教員 【取組内容】 演習を中心に個別もしくは は少人数指導。 【使用教材】自作教材	定期考査 (後期期末)	正答率40%を 通過する割合 が8割以上	正答率40%の目標値 を通過した生徒は 1年数81%、英83% 2年数63%、英72%	引き続き来年度も実 施し、学習が定着し ていない生徒の学力 を高める。	△	
3 継続	夏休明け 補充教室	全学年 国社数 理英 全員	9月 2～8 日 放課後 60分	【指導体制】学年教員 【取組内容、ねらい・目的】 演習をクラスごとに実施。 【使用教材】自作教材	定期考査 (前期期末)	前期期末考査 までに基礎・基 本を定着させ、 得点が50点に 満たない生徒 を30%未満。	得点が50点に満たない 生徒は1年22%で あったが、3年36%、 2年31%と目標に達 さなかった。	定期テストでは、得 点が50点に満たない 生徒が平均40%ほど いることを考えれ ば、効果があったと 考えられる。	○	
4 継続	学習コン クール	全学年 国社数 理英 全員	年1回 ～3回 実施 朝学習 の時間	【取組内容、ねらい・目的】 基礎学力に関するテスト を行う。基礎学力の定着が ねらいである。基準未満の 生徒には課題を課したり、 放課後学習をしたりする。	各教科 学習テスト	達成基準は各 教科により異 なる。	各教科で1回ずつ学 習コンクールを実施 した。意欲的に学習 する生徒の姿がみら れた。	生徒の学習意欲を高 めているか検証して 来年度の計画を立案 する。	◎	
5 継続	朝読書	全学年 全員	朝学習 の時間	【取組内容、ねらい・目的】 毎朝10分間の読書時間を 設け、興味関心を高める。	学校評価 アンケート	年間読書10冊 以上の生徒を 50%以上	年間読書10冊以上の 生徒を38%にとどま った。	今後、啓発活動や読 書月間等を取り入 れ、機会を増やす。 ビブリオバトル等の 取組を継続させる。	△	
6 継続	家庭学習 の定着	全学年全 員	年4回 7月、 9月、 11月、 2月	【取組内容、ねらい・目的】 テスト勉強を機に自学自 習の習慣化を図る。2週間 前を家庭学習定着月間と 家庭学習記録表等で確認	家庭学習実施 状況調査	テスト前の調 査期間に1日 平均2時間学 習できた生徒 を70%にする	調査期間では65%で あった。それ以外の 平日では、19%であ った。	平日では家庭学習を していない生徒が 16%いる。今後の改 善が必要。	△	
項目		達成基準		具体的な方策		実施結果		コメント・課題		達成度
学力向上を図る ために、教員の指 導力を高める。		・新学習指導要領に向け、 各教科で主体的で対話的 な深い学びができてい る。授業評価で先の各項目8 割以上 ・「授業が分かりやすい」 「授業に意欲的に取り組 んだ」と肯定的に答える生 徒が8割以上		・各授業で下記の項目に沿 った授業展開を行う。 ① ねらいの明確化 ② 主体的な活動 ③ 授業の振り返り ・OJTを推進し、互いに授 業研修を行うことから指導 力を高める。		・5科ではすべての教科で「授業 が分かりやすい」と肯定的に答 える生徒は9割以上、「授業に意欲 的に取り組んだ」と肯定的に答 える生徒が8割以上であった。 ・OJTの職場内の活性化を目指 し、自己申告書に記載させ進行 管理を図った。「学校は学力上 に積極的である」に対して肯定 的な回答をした保護者は77% であった。		・来年度は小中連携を推進 し、授業改善に取り組む。 足立スタンダードは定着 し、対話的で深い学びを工夫 して取り入れさせたい。 ・OJTの趣旨を踏まえた 校内体制の一層の充実を図 る必要がある。		○

重点的な取組事項－2		基本的生活習慣の定着と心の教育の充実を図る			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生活指導が全ての教育活動の根幹であるとの考えのもと、生徒が安心・安全な学校生活が送れるよう、基本的生活習慣の定着、規範意識の向上、いじめを許さない心の教育を充実させる。		生徒および保護者アンケート調査で「学校に行くのが楽しい」と肯定的に答えた割合が8割以上	「学校に行くのが楽しい(様子)」と答えた生徒は84%(昨年度比2ポイントup)、保護者は86%(昨年度比1ポイントdown)であった。	昨年の1年生は7割程度にとどまっていたが、8割近くに上昇した。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的生活習慣を確立し、規範意識を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 常にきちんとした服装・頭髪を心がけさせ、「身だしなみ点検の取組により基本的生活習慣が向上した」と答える生徒80%以上 ほとんどの生徒が、学校や社会のルールを理解し、守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の身だしなみ点検を実施し、常にきちんとした服装・頭髪を心がけさせる。朝のあいさつ運動を実施する。生徒指導では、教職員が共通理解のもと、共通実践する。 「素直な心」「我慢する気持ち」「規律ある生活態度」を生活目標に掲げ、全教員あがって規範意識の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「基本的生活習慣が今までより身についた」に対して「とても、少し」と答えた生徒は82%で、昨年度より2ポイント向上した。また、保護者も肯定的回答が84%であった。 「あいさつや家庭学習の習慣が昨年度より向上した」に対して肯定的な回答をした生徒は、全校で80%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割の生徒が身についたと考えており、身だしなみ点検で指導が必要な生徒は少ない。遅刻は減っているが、今後も指導の継続が必要である。 全校的に改善が進んでいるので、様々な機会をとらえて、さらに指導していく。 	○
悩みを抱えている生徒に適切な対応を行う。	<ul style="list-style-type: none"> いじめを許さない集団作りを行う一方、いじめが発生したときに早期の対応を行う。 特別支援教室に通っている生徒の授業満足度が70%以上。 年度末の段階で、登校できない生徒を10名未満にする。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ調査やQ-U調査を実施する。暴力やいじめと思われるときは、対策委員会を開き、対応策を検討する。 特別支援教室「青葉ルーム」の充実を図り、通級生徒のコミュニケーションを高める。 養護教諭やSC等を含めた会議を週1回開き、情報を共有し、対象者にはスモールステップで対応にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uを2回実施し、生徒理解に努めた。いじめの訴えやいじめと思われる生徒間のトラブルが発生したため、早急な対応を行い、重大事案になることを防いだ。 青葉ルームの満足度は80%。コミュニケーション力が向上した。 各学年で適切に対応している者の、30日以上欠席をした生徒は16名で、昨年度に比べて4名増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uの分析結果をもとに、生徒の学級への適応を図る。いじめに対しては教員がアンテナを張り、早急な対応を心がける。 今後も保護者の理解を得て推進する。 改善が必要。来年度は30日以上欠席数を10名未満とする。 	△
心の教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業をさらに改善・充実を図り、思いやりのある生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に授業改善を心がけ、心の教育を推進する。評価ではポートフォリオを活用する。 年2回、道徳授業の研究授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間の充実を図るため、研究授業を2回実施した。指導方法や評価の共通理解を深めた。 コロナ禍のため、ボランティア活動をする機会をほとんど設定できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 二度の研究授業を通して、道徳授業の改善が進んだ。 来年度は、全員がボランティア体験できる機会を設ける。 	◎

重点的な取組事項－3		魅力ある学校づくりと教育環境の維持を図る			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校の特徴を鮮明にして、魅力ある学校を築く。仮設校舎であるが、できる限り教育環境の維持を図る。		本校の取組を、保護者および「開かれた学校づくり協議会」へのアンケート調査で肯定的回答が7割以上。	入学して良かったかというアンケートでは、生徒94%、保護者86%が肯定的に受け止めている。昨年度よりともに向上している。	・コロナ禍のため予定していたキャリア教育等は実施できなかった。来年度は実施予定。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
ゲストティーチャーによる講演会を行い、広い視野で自ら生き方を考えさせる。	・学年毎に、成長段階に応じた学びに関する講演会を年1回実施する。	・前期はキャリア教育として経済同友会や留学生による講演会を実施できなかった。 ・後期に、個性の伸長や自己をみつめることをテーマとした講演会を学年毎に開催。	・コロナ禍のため、予定していた各学年でのキャリア教育を実施できなかった。 ・後期はPTAと学年ごとに進路学習の講演会を開催した。	・来年度は、生徒の実態に合ったキャリア教育を展開したい。 ・生徒が自らの進路を考えるきっかけとなった。	△
生活リズムの向上と食育の推進を図る。	・年度末の調査で朝食取得率が95%以上 ・「ベジファーストを意識して食事をしている」と答えた生徒70%以上	・「早寝、早起き、朝ごはん」の調査を年2回行い、朝礼での校長講話や学校だより等で啓発活動を実施する。 ・日頃から啓発活動を行う。特活で自らの食について考えさせる機会をもたせる。	・年間2回、食事に関するアンケートを実施した。2回を通して、朝食の摂取率は91%だった。 ・「ベジファースト」については、11月の時点では67%の生徒がサラダから食べていた。「我が家のシェフになろう」という取組を実施	・朝食に関しては、2回ともほぼ同じ生徒が摂っていなかった。保護者に理解していただく必要がある。 ・ベジファーストを意識するなど、生徒が食生活を向上しようとした。	○
感染症予防が強く求められる中でも、魅力ある教育活動を行い、発信する。	・スポーツやカルチャーイベントを開催する。 ・学校の様子を保護者や地域に発信する。	・3月に学年ごとにスポーツイベントを、2月に文化祭に代わるイベントを行う。 ・ホームページを毎日更新し、生徒の様子や様々な情報を保護者や地域に提供する。	・3月に学年ごとにスポーツイベントを実施。学習発表は3月上旬に行う予定。 ・毎日、ホームページを更新し、学校の情報等をお知らせした。	・コロナ禍の状況をみて、ボランティア活動を再開する。 ・今後も、地域の一員として活躍できる生徒を育てていく。	○
仮設校舎であるが、できる限り教育環境の維持を図る。	・登下校時の交通トラブルをゼロにする。 ・学校行事や部活動では満足できる環境を整える。	・通学路の安全を図るとともに、安全指導を充実させる。 ・大学、区施設の協力を得て、活動場所を確保する。	・交通指導員を配置していただき、事故は発生していない。 ・帝科大等の協力により活動場所を確保し活動することができた。	・今後も安全指導の徹底を図る。 ・できる限り支障のないように学校行事を実施する。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【課題】 区の学力調査では通過率がほぼ目標値に達した。年度末到達度テストでも正答率が、1年生では区平均を超え、2年生では区平均程度になった。「授業が分かりやすい」と肯定的に回答した生徒は9割を超えている。自分の思いや考えを表現し伝える力の育成が進んだ。

しかし、一方では基礎学力が不足している生徒がいる。家庭学習が定着していないことが大きな要因である。また、読み解く力が不足している生徒も見られることも課題である。

【対策】 数学では全時間でTTを実施し、できる限り授業時間に習得できることをめざす。英語では放課後のASTを活用し、補足的な学習を充実させる。国語では教科指導を通して読書習慣を育成し、総合的な学習の時間でビブリオバトル等を取り入れるなど、読書の推進を図る。家庭学習の時間が伸び悩んでいるので、一層の啓発が求められるとともに、今後も放課後のASTを活用した各種コンテスト等の計画的な実施を継続して行う。

イ 基本的な生活習慣の定着と心の教育の充実について

【今年度の成果】

・遅刻ゼロ運動や身だしなみ点検を実施し、ほとんどの生徒が基本的な生活習慣を身につけている。いじめの訴えがあり、いじめと思われる生徒間のトラブルも発生した。早急な対応を行い、重大事案になることを防いだ。道徳などいろいろな場面で、生徒の心の教育が推進された。

【次年度に向けた課題及び解決の方向性】

・一部の生徒に、規範意識が身につけていない生徒がみられるので、場面を的確にとらえ指導していく。引き続きいじめのない学校をめざす。いじめが発生したときは、早急な対応をとる。特別に支援が必要な生徒が多くみられるので、「青葉ルーム」を活用し、コミュニケーション力を高めていく。不登校の生徒を減らすため、関係諸機関と連携しながらスモールステップで対応していく。

ウ 学校の特色化と魅力ある学校づくりについて

【今年度の成果】

・コロナ禍のためにゲストティーチャーによる講演会はできなかったが、生徒の実態にあったキャリア教育を実施した。朝食の摂取やベジファーストなど食育の推進を継続して行った。学校改築に伴い、様々な課題があったが、教育委員会と連携し、最善を尽くしている。

【次年度に向けた課題及び解決の方向性】

・引き続き魅力ある学校に向けて、学校の特色化を図る。改築および仮設校舎での学校生活に関しては、生徒にとっての最善の方策をとっていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

【保護者の皆様へ】

千寿青葉中学校の教育活動は、保護者の皆様のご支援とご協力、さらに学校との協働により支えられています。私たち教職員は、生徒の実態をふまえ、保護者・地域の皆様の要望にできる限り応えられる教育を展開していく所存です。自分の夢に向かって「自立」する生徒の健全育成のためにご理解とご協力をいただければ幸いです。また、本校は現在、改築工事を行っております。数学距離が

【地域の皆様へ】

地域の学校であることを自覚し、地域の皆様の学校に対する熱い思いや願いに応えることができるよう努力してまいります。今年はコロナ禍のために地域との連携がほとんどできませんでしたが、来年度は開かれた学校づくり協議会とともにいろいろな取り組みをしていきますので、ご協力をお願い申し上げます。また、改築工事に際しても、引き続き地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。地域に信頼される学校を作ってまいります。